高野百里　電堂　名勝春字文館號俳諧舍堂江戸の人享保十二未年五月十二日歿す歳六十二大川端東江寺に葬る

高山北溟　名尚賢稱平助安永六酉年八月廿五日歿す淺草誓願寺に葬る

高山彦九郎　正之　上野國新田郡細谷村の產寛政五丑年六月廿七日屠服歳四十四

高逸記　芙蓉　名孟彪字孺皮初宇作本姓大島篆刻の名人なり天明四申年四月廿四日歿す歳六十三小石川無量院に葬る

高木壽頴　參石　通稱五郎兵衛號梅嵓又加茂廼屋明治十六未年正月十六日歿す歳七十

鷹見三郎兵衛　爽鳩　名正長字四方三州の人田原侯に仕ふ徂徠門人本石川氏淺草新堀松源寺に葬る

鷹見三郎右衛門　星皐　名允字子允三州田原世臣爽鳩孫文化八未年十月三日歿す歳六十二草松源寺に

高嶋千春　畫有職に精し號融齋又鼎湖稱壽一郎安政六未年十一月十一日歿す歳八十下谷雄念寺地中願壽寺に葬る

高嶋玄札　高島玄道とも云醫師なり本所四丁目に住す元祿二己年十二月十四日歿す歳八十三

高嶋四郎大夫　秋帆　長崎の人名敦字舜臣後稱喜平慶應二寅年正月十四日歿す歳六十九駒込東片町大圓寺に葬る法號皎月院殿碧水秋帆居士

高久隆古　靄厓義子稱斧四郎本姓川勝氏安政五午年八月廿六日歿す歳五十九谷中天龍院に葬る

高久靄厓　號疎林外史名徽一稱秋輔下野佐野の人號學梅齋文晁門人後一家を成す天保十四卯年四月八日歿す歳四十八谷中天龍院に葬る

高森正因　享保三戌年四月十九日歿す歳四十九

高瀨梅盛　高名の俳人俗稱太郎兵衛薙髮して宗入居士號佗心子元祿十二卯年四月八日歿す歳八十九

高瀨學山　林鳳岡門人名忠敦字希樸號松菴紀藩の醫なり江戸に勤番せし時德廟潛邸の頃儒官に命せられ蓄髮して忠兵衛と改む後作右衛門と云ふ寛延二己年六月十五日歿す歳八十二

高瀨道鑑　號道甘齋梅盛の兄俗稱清太郎元祿四未年二月十五日歿す歳八十三

高　嵩月　常雄　號景納嵩谷門人天保元寅年十一月廿日歿す歳七十六

高　嵩谷　一雄　佐脇嵩之門人樂只齋翠雲堂又屠龍翁の數號有り文化元子年八月廿三日歿す歳七十五淺草西福寺地中智光院に葬る

多田東溪　號蒙齋明和元申年八月廿六日歿す歳六十三

多田義俊　南嶺　桂秋齋を見よ

多々良南川　通稱丹下名義方京の人寛保元酉年七月廿七日歿す歳七十四京極大雲院に葬る

辰岡万作　浪花島の内に住す狂言作者辰岡家の祖なり文化六己年九月三日歿す歳六十八

立野老樗軒　名遲櫟(岡田と改姓)岡田樗軒を見よ

辰松八郎兵衛(初代)　元藤井伊十郎人形遣にて名高し寛延三午年十一月廿四日歿す歳六十六

辰松八郎兵衛(二代)　儡振　文化九申年五月九日歿す歳六十七

龍公美　草蘆　字君玉山城國伏見の人寛政四子年二月二日歿す歳七十八

辰巳屋惣兵衛　踊狂　小石川傳通院前の茶店文政四巳年十月廿四日歿す歳八十八同所久保町慈照院に葬る法名快樂遊仙(翁の葬送の時のさま眞先は此頃流行せるかん〳〵の唐人踊り也夫より唐人のねりもの數人管弦にて西道と書たる幟四本棺の前後に押立棺の上にはうるはしき振袖を掛け道をねり行く觀る者猪の如し斯て寺に至ればさやり歌にて葬りしと云實に此翁昔より年毎の祭りにおかしきさまして踊り出其名高く世に知られたり諸侯方へも招かれて踊り興じたり此頃の一奇人也踊狂の名は蜀山より送りしなり此頃の人は老女の異樣に化粧せしを見ては辰己屋のやうなりなどいひたる程にもてはやされし江戸の名物也)

種村箕山　澤村琴所門人字元民通稱元治江州の人寛政十二申年六月十二日歿す歳七十九

田邊次郎太夫　貞齋　名經忠字世篤博く雜書に渉る安永二巳年閏三月十一日歿す淺草本願寺に葬る

田邊晉齋　淺井重遠門人名希文字子都號翠溪仙臺世臣稱喜右衛門安永元辰年十二月十二日歿す歳八十一

田邊是來　嘉永四未年三月十六日歿す芋坂長善寺に葬る法號仁讓院義正日巧

田中抱二　青々葬　通稱金兵衛畫風抱一の流也明治十八年正月廿三日歿す歳七十一寺嶋村法善寺に葬る

田中訥言　大孝齋　名痴字虎頭法橋に叙せらる尾張の人平安に住す古畫の風致を得しは此人を魁とす文政六未年三月廿一日歿す

田中良齋　存生齋　名榮治通稱多兵衛尾州名古屋の人狩野常信門人畫名朴黃狐又茶道にも精し寶曆十三年十二月六日歿す歳八十二

田中道榮　通稱太兵衛神田辨慶橋に住し狂歌を嗜めり文政八酉年二月六日歿す歳八十下谷金杉世尊寺に葬る辭世「今迄の業も勤もつきはてゝ嬉しく歸るもとの古郷」

田中宗逸　明治五申年十月廿日歿す

田中武助　蘭陵　名良暢武州の人徂徠門人少年四傑の一人享保十九年十二月廿五日歿す歳三十六山谷瑞泉院に葬る(田中桐江の姪也)

田中大秀　香木園　號湯津稱彌兵衛飛驛の人薙髮して荏野翁鈴屋翁門弘化四未年九月十六日歿す歳七十二飛彈大野郡松室園に葬る

田中源内　東泉　名親長京師の人仁齋門人享保十七子年八月廿三日歿す歳六十八文逸先生と私謚す

田中歸春　五英　通稱喜右衛門字清友書家なり文化九申年十一月十七日歿す歳五十九深川靈岸寺に葬る

田中道磨　本居門人號榛木翁稱庄兵衛美濃の人後名古屋に住す天明四辰年十月四日歿す歳五十五

田中収藏　玉峯　名爲則字子翼書を能す文政十一子年十月十八日歿す歳七十

田中兵庫　丘隅　通稱隅右衛門後兵庫名喜古號冠帶老人一年相州酒勾川の洪水を治て功績あり遂に旗下の列に加り縣令に至る享保十四酉年十二月十日歿す歳六十八川崎在小向村妙光寺に葬る

田中省吾　桐江　山縣周南門人號富春山人出羽の人寛保三亥年二月四日攝州池田にて歿す歳七十三（省吾一號雪華道人始兵學を以て甲斐侯に仕ふ後故有て藩を去りて後姓を富名逸字春叟桐江と號す晩年奥州三春に隱る）

田村臨川　延享元子年十一月廿四日歿す歳六十

田邨雄藏　華山　名孝偉赤澤節巖門人寛政五丑年四月十二日歿す歳三十一

田村元雄　藍水　本姓坂上名元臺一名登物産學家なり安永五申年三月廿三日歿す歳淺草北寺町眞龍寺に葬る

田村西湖　僊杏菴　寛政五丑年正月十九日歿す淺草北寺町眞龍寺に葬る

陶梅里　梅里山人　名酉字冲巳本所中の郷に住める瓦方用達なりしが書を好み山水花卉を描くを得意とせり寛政十午年六月廿八日歿す歳六十五中の郷成就寺に葬る

道本和尚　淺草藏前大護院隱居安政四巳年八月廿八日寂す歳九十神奈川金藏院に葬る

唐來三和　伊豆亭　本姓加藤通稱和泉屋源藏草雙紙黄表紙の作者本所松井町に住せり文化十二亥年八月五日歿す歳六十七深川淨心寺に葬る

田野村竹田　古谷昔陽の門人豐後の人本藩世臣稱行藏天保六未年八月廿九日歿す歳六十大坂南寺町淨春寺に葬る

田口如松軒　如松　京師書所通稱數馬字正堅寶永五子年八月廿八日卒す歳七十五京極西園寺に葬る

澤菴和尚　宗彭　冥之　柴野大德寺百五十三世號宿玄又東海暮翁正保二酉年十二月十一日寂す歳七十三碑東海寺にあり

田山敬儀　通稱順治小澤芦菴門人伊賀人文化十一戌年四月十九日歿す歳四十九北白川心性寺に葬る

玉川庄右衛門　了覺　玉川上水の起工人元祿八亥年六月八日歿す歳七十四淺草寺町聖德寺に葬る

玉垣額之助　角力年寄もと士籍より出でたりといふ其故か人品よかりき明治十四巳年八月廿五日歿す歳六十九

玉木葦齋　山崎闇齋門人神道に深し元文元辰年八月七日歿す

玉菊遊女　新吉原角町中萬字屋勘兵衛抱本名たね享保十一午年三月廿九日歿す歳二十五淺草光感寺に葬る（光感寺の墓碑には光岸明秀信女寶永元年甲申五月十九日とあり）

玉置茂八　筆華堂　淡路の人玉置半助門後師の姓を嗣く名榮長明治五子年八月十七日歿す歳七十五本所砂村持寶院に葬る（玉置半助寺澤友太夫馬場大助抔の類皆御家流なり）

竹尾喜筑　山縣大貳孫初め增上寺の僧後還俗して幕府の表坊主と成り竹尾姓に改む天保十亥年八月六日歿す歳五十九麴町十丁目心法寺に葬る

竹田出雲　千前軒　竹田近江の子名清定實暦六子年十月廿一日歿す歳六十六

武田梅龍　蘭籬　名欽繇美濃人宇野士新の門人初名惟岳南陽と號す通稱篠田源助後本姓武田に復し後年東涯に就く平安に住す明和三戌年十月十六日歿す歳五十一洛妙心寺に葬る

武田長壽院　杏仙　名靜字信成號彙山官醫なり實永二酉年七月廿六日歿す品川東海寺中少林院に葬る

武田耕雲齋　正生　通稱伊賀慶應元丑年三月若州に於て斬せらる歳六十三

竹田羽紅　號玄々堂寛保三亥年閏四月三日歿す歳五十七

竹田近江　清直　阿波の人万治元年十二月朔日出雲と受領す寛文二年春大坂にてからくり芝居興行し享保十二酉年閏九月十九日歿す歳八十一（稱窓漫筆卷の二○初代竹田近江阿波の人通稱次郎兵衛享保十一年五月五日近江と改同十四年閏九月十九日死八十一歳○悴近江三四郎享保十九年十一月近江と受領す寛保二年戊九月二日二代近江清英死○弟近江平助と云寛保三年四月京都にて受領す云々）

竹内雲濤　醉死道人　名鴿字九萬號不可、無竹居、詩人なり文久二戌年十二月十四日歿す歳四十九東本願寺地中清光院に葬る

竹内玄々一　竹窓　號有無軒後勾當俳家奇人談の編者幡州高野人文化元子年八月廿五日歿す歳八十三谷中長久院に葬る辭世「朝かぼやしはめは又の朝ぼらけ」

竹内式部　天龍道人　名王瑾越後の人京に出て德大寺殿家來と成る子細有て實暦八年八月追放竹田正菴と改め勢州に寓す明和四年八月山縣大貳の獄に連りて遠流す後赦免有て信州諏訪に趣き文化七午年八月廿一日歿す歳九十三

武野一閑居士　紹鷗　甲斐源氏武田信光の裔堺の人三條右府公に仕へ薙髮の後古岳禪師に隨て茶道の奥を極め大黑菴と號す室町四條に住す弘治元卯年閏十月二十九日歿す歳五十四堺南宗寺に葬る

武野宗瓦　因幡守仲村と稱す紹鷗の男號方寸齋慶長十九寅年八月廿六日歿す歳七十一同寺に葬る

竹下東順　榎本を見よ（えの部）

竹本播磨少掾　喜教　稱中紅屋長四郎初め若竹政太夫後二代目義太夫元文二年播磨少掾と改ひ延享元子年七月廿五日歿す歳五十四大坂天王寺領國恩寺に葬る

竹本於傳代初　芝桝　江戸人形町に生る婦人に稀成る上手諸侯に召され大に行はる文化十三子年五月廿七日歿す歳五十九淺草千念寺に葬る

竹本おぞん二世　芝栁　木挽町船宿扇屋万五郎娘、母は元祖お傳三代目坂東三津五郎妻後五代目瀬川菊之丞妻と成る文政十一子年二月六日歿す歳三十九西本願寺地中に葬る

竹本政太夫二世　大坂ざこばに生る稱十兵衛さこば政太夫是なり明和二酉年七月十日歿す歳五十六

竹本政太夫三世　二代目魚屋十兵衛政太夫門人通稱藤本利兵衛文化八未年七月十四日歿す歳五十九淺草阿部川町密藏院に葬る

竹本越太夫　爲聲　大坂の人元祖越太夫門人初名要太夫天明四年江戸に下り世に愛せられ富饒の身と成り居付地主となれり文政元年八月三日歿す歳五十七本所柳島法性寺に葬る法號本立院善開日壽辭世難波より大江戸に下りて早三十五年の今門葉の繁る事ありがたく何か思ひ殘さん「御當地の恵みにふしもかれにけり扇拍子のうち納めかな」

竹本義太夫　博敎　俗稱五郎兵衛元祿十四年五月竹本筑後少掾と受領す正德四午年九月十日歿す歳六十四大坂天王寺地中超願寺に葬る

竹本宮戸太夫　天保八酉年五月廿七日歿す

竹本石亭　俗稱又八郎名正興明治廿一年一月一日歿す歳六十七小石川光圓寺に葬る

竹本住太夫初代　文雅　通稱田中文藏文化七午年三月十八日歿す歳五十二西本願寺地中妙延寺に葬る

多湖柏山　實暦三酉年四月十六日歿す歳七十四

多湖松江　安永三午年十一月廿日歿す歳六十六

建部巢兆　號稚香菴江戸千住に住す一號松甫又黄雀菴白雄門人書畫及俳諧を能す文化十一戌年十一月十七日歿す淺草日輪寺に葬る

建部傳内　名實文初稱絃藏德川家御祐筆尊圓法親王の御流にて謂はゆる御家流なり後世まで幕府の記錄皆この書風を以てす天正十八年九月廿一日六十九歳にて歿すといふ（因に云傳内流の書風上方にも行はれて名高かりし故菅原傳授手習鑑の曲に武部源藏といふ人物を作りたり傳内初め絃藏と呼びたればなり）

建部綾足　凉岱　字孟喬號寒葉齋吸露菴南部の人俳諧繪畫に名あり又小説文を善くす安永三午年三月十八日歿す歳五十六牛島弘福寺に葬る（凉岱性磊落不羈品行上議すべき者ありと雖も秀才多能拔群なり曾て連歌の片歌といふを主唱してさる貴顯より片歌道守の名をかきて賜はりしが片歌は遂に行はれずしてやみぬ）

立川焉馬　談洲樓　本所相生町五丁目に住す本姓中村氏俗稱和泉屋和助と云ふ文政五午年六月二日歿す歳八十本所表町最勝寺に葬る（焉馬は大工職棟梁なり依て狂名を鑿鈑（ミヤツチウチ）言墨曲尺（ムネカネ）といふ戯號烏亭天明六午年四月十一日昔噺の會を始て向島の武藏屋權三郎方にて催し其後寛政四年正月廿一日を例會とす落噺中興の開祖とす）

立川焉馬二世　通稱山崎常次郎町與力山崎助左衛門の男深川古石場に住す其家を七國樓と云初名蓬來山人文政十三年二代目焉馬と改む弘化三年近松門左衛門と名乘り中村座へ出勤翌年退座文久二戌年七月廿三日歿す歳七十一小石川極樂水大雲寺に葬る

伊達吉村　伊達肥前守宗房長男從四位中將陸奥守實暦元年未年十二月廿四日卒す歳七十二芝東禪寺に葬る

伊達政宗　左京太夫輝宗長男從三位中納言陸奥守寛永十三子年五月廿四日薨す歳七十三芝東禪寺に

伊達宗紀　春山　舊宇和島藩主遠江守後伊豫守寛政二年九月十六日生る明治廿二年一月從二位同年十一月廿四日宇和島に薨去年百歳特旨を以て正二位を贈らる

太宰純　春臺　本姓平手氏字德夫號紫芝園太宰謙翁に養れて大宰氏を冒す通稱彌右衛門信州の人初中野撝謙に學び後徂徠に隨ふ延享四卯年五月三十日歿す歳六十八谷中天眼寺に葬る

瀧方山　招鳩軒　東六條御門主の家士初名峯山後芳山稱主水維舟の門享保十五年戌五月廿四日歿す歳八十

瀧　鶴臺　山縣周南門人名長愷稱彌八長州の人安永二己年正月廿四日歿す歳六十五

瀧川吉平次　友交　敵役中山平八子初竹三郎正德五未年十二月十九日歿す歳四十七芝觀智院に葬る

瀧野瓢水　播州加古別府の人酒井侯封を姫路に移され巡覽之時此家を問へり精しくは續畸人傳に見ゆ實暦四年某月日歳七十七にて歿す

瀧本坊昭乘　惺々翁　號松花堂城南雄德山社僧能書ゑして近古三筆の一人寛永十六卯年九月十八日歿す歳五十六

多紀元胤　柳洐　櫟窓の男字紹翁文政十亥年六月二日歿す歳四十七平塚城官寺に葬る

多紀元悳　藍溪　姓は丹波名元眞字仲明永壽院と稱す享和元酉年五月十五日歿す歳四十平塚城官寺に葬る（明和二年四月廿九日父安元と共に上願して始て神田の地に醫學館を起し躋壽館と號す明和九年二月諸堂火災に罹り元悳私財を以て佐久間町に再建し永く後進を稗益す濟世の術のみならず其事業大なる近世に希なるとなり寛政三年十月御改正被仰出公儀持と成る）

多紀元簡　櫟窓　藍溪男通稱安長號桂山字廉夫文化七午年十二月二日歿す歳五十六同寺に葬る

多紀安叔　莅庭　名元堅字亦柔學醫なり本石町四丁目に住す元胤の男安政四巳年二月十七日歿す歳六十三寺同上

瀧澤馬琴　篁民　通稱清左衛門後瑣吉名解號著作堂又曲亭玄同陳人簑笠隱居嘉永元申年十一月六日歿す歳八十二小石川茗荷谷深光寺に葬る

瀧澤羅文　名興旨稱直二郎號東岡舍馬琴兄羅文は俳名なり寛政十午年八月十七日歿す歳四十

爲永春水　狂訓亭　本姓佐々木氏長次郎と云後鶴鶴正輔と改む天保十三寅年七月十三日歿す歳五十四西本願寺地中妙傳寺に葬る（春水は元書賈にて青林堂越前屋長次郎と云初め式亭三馬門人三鶯と云後二世振鷺亭と號す故人楚滿人か女に乞ひて二代目楚滿人となりしか故有て其名を返し文政十一子年爲永春水と改ひ居所數多替れり初橘町油町新道又辨慶橋牛島と移り後下谷池の端に移り又多町二丁目に移る中頃舌耕師と成り金龍山人と號す天保十三年四月公より咎を蒙り手鎖中に病死す）

爲永春水　本名染崎延房對州嚴原藩士狂訓亭の門に入り二世師歿後其稱を襲ふ性質素朴謹直なりき明治十九年九月廿七日歿す歳六十四坂本一丁目養玉院に葬る

爲永春江　明治二十年十二月廿日歿す

鯛屋貞柳　由緣齋　通稱永田清右衛門名信來狂歌を豐藏坊信海に學ぶ享保十九寅年八月十五日歿す歳八十一大坂下寺町光傳寺に葬る（貞柳本姓榎並氏父は貞因貞室門人大坂南御堂前にて鯛屋山城掾と云菓子製所なり或年南都松井和泉と云へる油煙所より大形の墨を大内へ献進あるを聞て「月ならで雲の上まですみのぼるこれはいかなるゆゑんなるらん」此歌雲井に聞え由緣齋と號を賜ふ）

＊　＊　＊　＊　＊

れの部

蓮月尼　明治八乙亥年二月八日歿す年八十三墓は京都愛宕郡西加茂村神光院の後山にあり（蓮月尼は京都の豪家の女にして美人也歌を能くよみ後に尼と成洛東岡崎村に住居す自詠を燒物に染め付け酒器茶器等を手製し是をひさぎて渡世とせり中年の頃貧窮なりしも後年には有德になりきと云）

了然禪尼　京人葛山氏の女別稱元總松田晩翠の妻正德元卯年九月十八日寂す歳六十六高田落合泰雲寺に葬る（紫の一本に了然禪尼菴室（鐵炮洲のうち）是は東福門院樣へ宮仕せし女房女院薨御後尼に成り了然と云五山の僧を師として禪學を勤め海東に下り鐵牛に聞かんと す然とも容貌美にして寺門出入を許さず又木菴の弟子伯翁は駒込に居す其所ゑ在住せん事を望む伯翁云汝すぐれて美姿なりとて中々思ひもよらずと追出す了然力なく去り其近き町屋に入りて銅器を火に入少し物案ずるやうにして彼銅の赤く燒たるを顏に押あて面を燒き筆をとりて昔遊宮裡燒蘭麟今入禪林燎面皮四席流行亦如此不知誰是箇中移とし又「いける身を捨てやくみのうからましつひのたきゞと思はざりせば」後に尼と成泰雲寺主と成中興開基とす云々松屋叢書に云尾張國名古屋の人とあり自詠をあつめたるわかむらさきは元祿四年の版なり）

蓼和居士　號咫尺軒享和三年亥十月五日歿す大塚大慈寺に葬る

樸亭琴魚　名守親殿村氏通稱精吉勢州松坂の人にて曲亭馬琴の門人となりて戲作をなしぬ天保二卯年十一月廿一日歿す年四十四松坂なる寂光山願證寺に葬る

＊　＊　＊　＊　＊

その部

曾呂利新左衛門　得齋　本姓中川氏慶長八卯年九月廿二日歿す

曾我蛇足　宗譽　式部入道宗文と稱す初越前朝倉氏に仕ふ書法周文より出て一家をなす文明十五卯年十一月十七日歿す大德寺眞珠院に葬る

蘇嶺山人　見雅居士　名眞卿字拳叔詩人なり天明四辰年五月十五日歿す歳五十七淺草山谷宗林寺に葬る

宗長法師　紫屋軒　本姓島田氏駿河島田驛の人宗祇の門人天文元辰年三月六日歿す歳八十五

曾　昌道　占春　字士考薩州醫官本草家天保五午年二月廿一日歿す歳七十

宗祇法師　種玉菴　姓飯尾氏號自然齋紀州在田郡藤並莊の人文龜二戌年七月三十日相州湯本の客舍ゑ物故す歳八十二同所早雲寺に墓あり一說弟子宗長宗純宗祇の棺を舁き足柄山を越し駿河境桃園の定輪寺に葬ると

宗紫岡　稱楠本雪溪紫山男嘉永三戌年六月六日歿す歳七十法號誠性院釋覺玄淺草本願寺中德本寺に葬る

宗紫山　宗紫石の男名白圭字君錫號苦溪文化二丑年十一月十九日歿す歳七十三寺同上法號壽性院釋覺誠

宗紫石　雪溪　字君赫姓楠本東都の人長崎に遊び熊斐に學ぶ後清人床人宗紫岩に學ぶ安永九子年五月廿日歿す歳六十五寺同上法號諦量院釋誠意

染崎延房　爲永春水二世を見よ

染木正信　韓人李氏成長して後老女染木の養子と成り染木八右衛門と云寛文二卯年九月廿八日歿す歳六十九（兎園小說卷一に御天守番飯島平二郎話予が相番染木某か先祖は韓人にして李氏なり豐太閤の時小童にして姉とともに片桐市正に生捕れて皇國に來れり市正此二人に唐山の童子の衣服をさせて臺に乘せ天樹院君にまゐらせたり姉は成長して早尾と云ひ弟は老女染木か養子になり染木八右衛門正信といひて兩人ともに生涯つかへ奉り其子を利右衛門正美といひて是も同し君につかへて添番を勤たり然るに實子なくして血脈を絶たりとそ家の傳ふる所は族稱平氏ともに染木といへりと輪池云）

＊　＊　＊　＊　＊

つの部

椿仲太　椿山　名粥字篤甫號琢華堂幕府の先手同心たり始め金子金陵の門後華山に學ぶ安政元寅年閏七月十三日（表向九月十日）歿す歳五十四牛込圓福寺に葬る

椿仲輔　常盤舍　名千稔號南塘四郎左衛門下總香取の人小山田與清門人弘化三午年六月四日京柳馬場の客寓中に歿す歳四十四

壺井鶴翁　鶴壽　名義知通稱安右衛門號溫古軒浪花の人有職故實に精し享保二十年卯十月廿四日歿す歳七十九城東淸光院に葬る

坪井靑城　名敏求字子俊安永二年巳五月十九日歿す歳五十八淺草新寺町正覺寺に葬る

坪井信友　信道男慶應三年五月廿五日長州山口に於て歿す年三十六

坪井信道　誠齋　字信道美濃池田の人宇田川玄眞の門嘉永元年申十一月八日歿す歳五十六淺草誓願寺に葬る長男信友後信道と稱す

辻萬里　街萬里を見よ（かの部）

土屋東雨　安親　通稱彌五八延享元年子九月廿七日歿す歳七十五

土屋訥齋　反求　名辨兇字士明寛政五年丑七月七日歿す高田亮潮院に葬る

土屋繩直　萊臺　字準夫號曲江名勘解由春臺門人實暦四年戊五月三日歿す歳五十七淺草海禪寺に葬る

釣舟清次　寛政二年戊六月廿二日歿す

鶴賀若狹椽　鶴翁　通稱高井庄兵衛宮古路加賀太夫門人にて宮古路敦賀太夫いふ後師と絶して朝日敦賀太夫又朝日を止められ鶴賀と改む狂名大木戸若牛と云ふ天明六年午三月廿二日歿す歳七十五淺草田圃幸龍寺に葬る

鶴賀加賀八太夫　新内　本姓岡田五郎次郎湯方御家人なり安永三年午八月十一日歿す歳六十一

鶴田卓池　弘化三年午八月十一日歿す歳七十九

鶴屋南北四世　北壽　通稱伊之助金井三笑の門に入り狂言作者となり始め勝俵藏と稱す文政十二年丑十一月廿七日歿す歳七十五本所押上春慶寺に葬る（鶴屋南北と名のる者數人あり前三代は俳優道化方なりしが四代に至り始て狂言作者となる四世南北は幼名源藏後伊之助父を伊三郎とて紺かきの形付を業せり安永四年金井三笑の門に入り勝俵藏と稱し後故有て鶴屋南北の名跡を嗣く演劇脚本を作ると五十余年佳作多し又稗史の作も有て姥尉助と署名せり高砂町に住みたるに因て也）

鶴屋南北五世　可祐　四代目南北孫稱孫太郎嘉永五子年正月廿一日歿す歳五十七深川寺町信行寺に葬る

鶴澤市太郎　始鶴澤咲治義太郎節三線師蟻鳳門人慶應元年丑九月四日歿す

鶴澤勇造　元祖鶴澤清七門人万延元申年十一月廿八日歿す歳七十一東本願寺に葬る

鶴澤友次郎　始の名三千藏延寶二己年七月廿四日歿す歳五十一

鶴澤文藏二世　始め仙藏中興の名人天保五午年九月廿三日歿す歳五十四大坂下寺町遊行寺に葬る

鶴澤文藏三世　初文敎二代目文藏子明治十九年八月廿三日歿す本所小梅常泉寺に葬る

鶴澤文三　文糸　鶴澤文藏門人始忠次郎安政六未年七月十日歿す歳五十三淺草黑舟町正覺寺に葬る

鶴澤才治　糸遊　五代目竹本政太夫の子始め清次郎鶴澤寛治門人安政五年午八月十日歿す歳四十三東本願寺地中等光寺に葬る

鶴澤蟻鳳　通稱大坂屋小三郎晩年三代目竹本播磨太夫と改む安政元年寅十月十日歿す歳八十四谷中佛心寺に葬る

釼山谷右衛門　始鰐石文藏後二十山要右衛門と改む嘉永五年子正月朔日歿す歳五十三

都賀六藏　大江漁夫　名庭鐘字公聲號大江山人浪花の儒者上田秋成の師と云ふ戯作二英草紙繁々夜話莠草紙等を學ぶといへり

塚田多門　大峯　名虎字升貌號雄風館信州の人天保三辰年三月廿一日歿す歳八十八名古屋城南大光院に葬る

塚本長兵衛　通稱幡隨意長兵衛慶安三寅年四月十三日歿す歳三十六下谷北寺町源空寺に葬る

津田忠助　東陽　名恭字士雅長州の人長門侯に仕ふ周南の門人寶暦四年戊九月十二日歿す歳五十三長府亨德寺に葬る

津田宗達　號大通紹鷗門堺の人天王寺屋といふ永祿九年八月二日歿す歳六十三

津田宗及　更幽齋　堺宿屋町住す大閤の茶道大德寺江月の父にて御醫師半井卜養が爲に外祖なり亦千利休の師といふ天正十九年卯四月廿日歿す

蔦ノ唐丸　柯理　喜多川氏通稱蔦屋重三郎烟羅館唐丸は狂歌の號也寛政九年巳五月六日歿す歳四十八淺草山谷正法寺に葬る

筒井　憲　鑾溪　始め紀伊守後伊賀守と稱す書を能くす安政六年未六月朔日卒す歳八十二鳴子常圓寺に葬る

堤　鴻佐　它山　名公愷江戸の人嘉永二年酉二月四日歿す歳六十七

堤　三五郎　朝風　幕府賄組頭を勤む博覽の人號竹裏亭又不占天保五午年四月七日歿す歳七十牛込七軒町淨林寺に葬る法名朝風不占居士

津村三郎兵衛　淙菴　名敎空佐竹侯用達傳馬町に住す和歌を能くし雅望の師なり文化三年寅五月十六日歿す東本願寺地中善宗寺に葬る

津打治兵衛　英子　狂言作者名人實暦十年辰正月廿日歿す歳七十八谷中蓮光寺に葬る

角田青溪　名明字公淵稱彌左衛門江戸の人天明八申年四月廿四日歿す

爪木晩山　吟花堂　初名永可一號二童齋京の人俳諧を能くす享保十五戌年八月十五日歿す歳六十九雙が岡長泉寺に葬る

月岡芳年　大蘇　本姓吉岡氏月岡雪齋の養子と成る元一勇齋國芳門人明治廿五年六月九日歿す歳五十四東大久保村專福寺に葬る

月岡丹下　昌信　高田敬甫門人浪華の人號雪鼎又信夫翁とも云ふ天明六午年十二月四日歿す歳七十七本姓は水田氏大坂に住せり

月形　弘　文久三年亥四月五日歿す歳六十五

月の本爲山　明治十一年一月十九日歿す歳七十五品川本光寺に葬る法號月本院爲山日晴（爲山妻の身まかりし時の狂歌「よの中のさかさまとはさらへども順にいつていれれがたまらぬ」

露の五郎兵衛　輕口話しの祖とも稱すべき人元祿十六年未五月九日歿す歳六十一

辻 鼠六 大黒菴 青々館春雄門明和七年寅八月廿五日歿す歳四十四

＊ ＊ ＊ ＊ ＊

ねの部

根岸鎮衛 従五位下肥前守元高五百石寛政十年十一月より南町奉行たり文化十二年六月廿八日加増五百石十八ヶ年勤續文化十二年亥十月廿八日卒す行年八十才文化十二年御加増の時「御加増をこんぞいたゞく五百石八十の翁の力見てくれ」

根岸權兵衛 友我 名直英長兵衛直利の男始長次郎正德元年十月辜命にて大坂の官金出納事務を命せられ後小普請組に屬す享保十四酉年九月廿五日歿す歳六十七谷中感應寺に葬る

根岸長兵衛 暫軒 名直利正德四午年三月三十日歿す谷中感應寺に葬る

根本八右衛門 武夷 名遜志相州の人徂徠門人明和元年申十二月二日歿す歳六十六相洲久良岐之村弘明寺に葬る

＊ ＊ ＊ ＊ ＊

なの部

内藤義英 露沾 西山宗因の門人下野守號傍池亭延岡享保十八年丑九月十四日歿す歳七十九鎌倉光明寺に葬る

内藤丈草 芭蕉門人佛幻庵尾州犬山の人僧徒たり寶永元年申二月廿四日歿す歳四十二粟津龍ヶ岡に葬る

内藤廣前 幕府先手組同心にして國學に精し慶應二寅年九月十九日歿す歳七十六

那波魯堂 主膳 名師魯號鐵硯道人播州の人岡白駒門人寛政元年酉九月十一日歿す歳六十三德島城西妙高菴に葬る

那波綱川 與藏 魯堂義子本姓佐々木氏號綱川字世勳父子ともに阿波侯に仕ふ文化十酉年五月歿す歳五十七

那波道圓 活所 名觚播州姫路人惺窩門人紀藩に仕ふ慶安元年子正月三日歿す歳五十七

苗村芥洞 三友 名道益近江の人仁齋門人其事蹟は伴蒿蹊が畸人傳に見ゆ寛延元辰年十月廿三日歿す歳七十五

鍋島閑叟 明治四年正月十八日薨す年五十八

生川春明 名は正香通稱三郎助伊勢津岩田町藥種商俳諧を嗜み俳家大系圖發句係辭等の著わり又近世女風俗考も此翁の編なり明治廿三年八月七日歿す歳八十七伊勢津敎圓寺に葬る

成田蒼虬 對塔菴 天保十三寅年三月十三日歿す歳八十三

成島筑鼎 龍洲 名和鼎通稱忠八郎道筑男文化五年辰五月四日歿す歳八十九本所本法寺に葬る

成島勝雄 衡山 字は飛通稱仙藏文化十二年亥七月六日歿す本所本法寺に葬る

成島道筑 鳳卿 名信遍字歸德號芙容道人又錦江成島道雪養子實暦十年辰九月十九日歿す歳七十二本所本法寺に葬る

成島圖書頭 司直 號東岳稱邦之助文久二年壬戌八月十三日歿す歳八十五寺同上

成島柳北 名弘字保民稱甲子太郎明治十七年十一月三十日歿す歳四十八寺同上

奈河龜助 一洗 始奈河篤助又一泉とも云ふ後一洗堂狂言作者也天保十三寅年二月三日歿す歳七十九大坂西寺町大林寺に葬る(逸事略す)

永原才六 左栗 名伴奥字曦臺號鐵齋詩學に長す享和三亥年三月廿二日歿す歳八十三深川靈岸寺地中長專院に葬る

中林竹洞 成昌 字伯明太原菴東山隱士の號あり尾州の人嘉永六丑年三月廿日歿す歳八十四

長橋右膳 東原 名賢佐字孟輔文政十二年丑六月十一日歿す歳五十八谷中長久院に葬る

奈河七五三助 洗口 奈河龜助高弟通稱金次郎文化十一戌年十月廿日歿す歳六十一大坂今宮海泉寺に葬る

奈河晴助 通稱宮島屋喜兵衛京の人一洗門人となり後豊晴助と改む文化九戌年正月十九日歿す歳四十五大坂四軒町淨圓寺に葬る

中西忠太 一刀流劒術の名人享和元年酉二月十七日歿す根岸善性寺に葬る

中西曾七郎 淡淵 名維章字文邦三州の人竹腰氏に仕ふ儒士なり實暦二年申七月十五日歿す歳四十二增上寺地中瑞花院に葬る

永富鳳介 昌菴 名鳳字朝陽獨嘯菴薙髮して昌安と云東洋門人明和三戌年三月五日歿す歳五十五浪花城南藏鷲菴に葬る

永富數馬 龜山 名友字充國獨嘯菴男五島侯の儒員享和元酉年六月十五日歿す歳四十五

長沼澹齋 名宗敬通稱外記兵法家なり元祿三年午十一月廿一日歿す歳五十四伏見東山養春寺に葬る

長雄半左衛門 耕雲 長雄流の祖上州沼田の產藤田友閑の門人有馬侯に仕ふ號柏梁堂寛永二巳年正月廿三日歿す歳六十二麻布淨林寺に葬る法號向旭院莊譽嚴說居士

中尾我黑 李洞軒 號青白翁寶永七寅年十月六日歿す歳七十一

中岡豊洲 名幹字子卿號由巳稱終吉文化十一戌年十一月七日歿す歳七十八牛込原町幸國寺に葬る

中尾正藏 廣德 字濟寛延三年午七月七日歿す西久保天德寺に葬る

中川長四郎 韓天壽 號醉晋齋伊勢の人鳥石門人韓氏寛政七年寅三月廿三日歿す歳六十九

中川幸之進　關雄　太湫門人勢州四日市の人名圭字圭甫實暦七丑年三月廿七日歿す歳廿九勢州三重高角邑に葬る

長川寛藏　華山　號芝山山本北山門人文化四卯年十月六日歿す歳三十

中川由儀　南山　字茂號不騫齋又若海文政八年酉八月九日歿す歳七十二淺草唯念寺に葬る辭世「愚知といふ心に心まとはれて此世の別れ今ぞしりぬる」

中川宗瑞　白兎園　通稱三郎兵衛延享元年子七月晦日歿す歳六十下谷幡隨院に葬る

中川宗瑞二世　廣岡氏一叟と號す通稱戸太夫明和九年八月九日歿す音羽本淨寺に葬る

中川宗瑞三代　松井忠吾目匂山人と號す文化十一年二月十五日歿す雜司ヶ谷眞乘寺に葬る

中川文十郎　憲齋　名文彭中川由義男書家なり慶應三卯年正月十日歿す歳七十七淺草唯念寺に葬る

中川貞左　姓水原ともいへり號一寸軒又自短頭翁俳諧を能くせり延享四卯年十二月六日歿す歳六十八河東法林寺に葬る

中川五兵衛　琴川　名健字强甫本郷に住せり享和元年酉四月歿す

中川美濃子　文雪　號文雪女史書を善くす嘉永六年丑正月十一日歿す歳五十

中神九左衛門　蓋峰　名守孝字忠順天明八年申六月廿九日歿す駒込吉祥寺地中洞泉寺に葬る

永田觀鶩　東皐　名忠原稱俊平號觀鶩道人又黎祈生とも云平安の人蘇門の門人寛政四子年八月廿五日歿す歳五十五

長田德本　知足齋　三河大濱村の人醫を以て四方に周遊す享祿の頃甲州武田信虎に游事す依て甲斐の德本といふ天文中去て信濃に卜居す寛永元年二月將軍に謁せし事あり寶永七年午二月十四日信州に歿す年百十七歳

中田學古　粲堂　本姓伊氏通稱平助名藤博印刻家天保三辰年六月廿三日歿す歳六十一山下慶運寺に葬る

永田田善　亞歐堂　通稱永田善吉岩代國岩瀬郡須賀川驛の人にて紺屋業なり江戸に出て司馬江漢の門に入り銅版畫の祖と稱す本畫は谷文晁門人文政五年午五月七日歿す歳七十二

永田主書　西河　名忠成字伯行觀鶩の子京式部省史生に至り越前大椽と稱す文化六巳年三月五日歿す歳五十三

中田秋香　谷文晁の妹よて中田學古の妻となる歿年谷秋香の條に出つ（たの部を見よ）

中根半仙　訊齋　名玄石書幷印刻を能くす嘉永二酉年八月四日歿す歳五十二本郷弓町等正寺に葬る

中根東里　室鳩巣門人名若思伊豆の人稱貞右衛門明和二年酉二月七日歿す歳七十二相州浦賀に葬る

中根覺太夫　君美　名經世號東平山人下毛の人高遠侯に仕ふ文化二丑年閏八月十日歿す歳六十五小苗木繩手常檢寺に葬る

中根左内　桂叢　名重玄享保七年寅五月十九日歿す本所回向院に葬る

中根春屋　慶應元丑年六月十八日大坂に歿す歳五十三

半井慶友　卜養　牡丹花宵伯の孫泉州堺の人延寶六年午十二月二十六日歿す歳七十二（家記に寛文六年十二月廿五日御番醫師被仰付同七年十二月廿三日二百俵被下之同九年六月十四日初めて御目見被仰付延寶元年十二月廿八日法眼被仰付同六年十二月六日願之通隱居被仰付或書に元祿四年七月廿六日奥醫師半井卜養不届之儀有之伊豆三宅島え流罪快卜仙儀小出大隅守ゟ御預同八月六日卜養下人吉兵衛出舟同五年五月十日嚴有院殿十三回忌御法事に付一同御免同十年四月廿日卜仙ゟ十人扶持被下之云々）

中村忠七　東夷　名以貞字正夫奥州福島の人白巖門弟明和三戌年三月十五日羽洲横手に客死す歳三十八

中村蘭林　名明遠字子晦號盈進齋初め玄春通稱新藏又源藏寶暦十一年巳九月三日歿す歳六十五谷中玉林寺に葬る

中村蘭石　雪竹齋　稱治太夫平安の人元文二午年七月二日歿す歳五十五

中村新八　篁溪　名顧言號春帆、水戸義公に仕ふ儒にして小姓頭格となる正德二辰年正月八日歿す歳六十八淺草八軒町妙經寺に葬る

中村正直　敬宇　幕府儒官幼名釗太郎佐藤一齋の門人後昌平學校ゟ勤仕す明治二年小石川に私立學校を開き同人社と稱す後正四位文學博士となる明治二十四年六月七日卒す歳六十谷中墓地に葬る

中邑元禮　名通方春臺門通稱太助江戸の人寛保元酉年十二月十日歿す歳二十九駒込吉祥寺地中龍光寺に葬る

中村佛菴　通稱彌太夫字景璉號至觀御疊御用達天保五午年正月七日歿す歳八十四

中村轍外　名い公成號無限道人掛川藩士富士を畫くに妙にして畫名岳蓮といふ天保十四卯年三月廿八日歿す年六十八

中村惕齋　敬甫　名之欽平安の人貝原篤信の門人元祿十五午年七月廿六日歿す歳七十四洛北一條壽村圓光寺に葬る

永井隱求　名行達通稱三右衛門佐藤直方門人元文五年閏七月廿八日歿す品川東海寺に葬る

中井董堂　敬義　通稱嘉右衛門號春星又小笠宜松文政四巳年七月廿六日歿す歳六十四西本願寺地中淨見寺に葬る（敬義は其かみ腹唐秋人といへる狂歌師なり一とせ夏日團扇に「定九郎こざるに暗の與一兵衛ひとりで行はあぶなかんぞ」といふ狂歌して人々に贈れり詩書歌俳能狂言をも善くせり）

中井竹山　甃庵長男履軒兄號雪翁稱善太文化元年子二月五日歿す歳七十五私諡文惠大坂八丁目寺町誓願寺に葬る

中井積德　履軒　字叔處稱德二甃菴の叔子文化十四年丑二月十五日歿す歳八十六私諡文清大坂寺町誓願寺に葬る

中井豫山　文政八酉年六月廿八日歿す歳四十三

永井尙志　介堂　松平主水正子天保十一年永井能登守養子と成り岩之丞と云ふ安政二年九月從五位下玄蕃頭尙忠と名乘り明治廿四年七月一日卒す歳七十六谷中墓地に葬る

中井藍江　中直　名直字伯養浪花の人蔀關月門人天保元寅年七月廿四日歿す歳六十五

中井誠之　甃庵　稱忠藏字叔貴播州の人浪花に遊び懷德書院敎授たり寶曆八年寅六月十七日歿す歳六十六

長野豐山　稱友太郎字孟確伊豫の人二州の門後山陽に學ぶ天保七申年九月廿二日歿す歳五十五二本榎廣岳寺に葬る

中野吾扇　觀阿　通稱半右衛門名良直號仁風舍寛政十二申年二月十五日歿す歳七十六

中院通勝卿　慶長十五年三月廿五日卒す歳五十三

中院通村卿　承應二年二月廿九日卒す年六十七

中院通茂卿　通純卿男寶永七寅年三月廿一日卒す歳八十

中院通純卿　承應二年四月八日卒す歳四十一

中埜搗謙　完扇　林道榮の姪名繼善稱善助長崎の人關宿侯に仕ふ享保五子年七月廿三日歿す歳五十四深川六間堀要津寺に葬る

中野其明　方琳堂　鈴木其一門人晴々齋と號す明治廿五年五月廿九日歿す五十九

中埜叔賢　名輝良壬生侯儒臣寛政四子年閏二月四日歿す西久保天德寺に葬る

中野清茂　石翁　播磨守駿河臺に住す天保十二丑年五月十二日卒す歳七十四牛込七軒寺町佛生寺に葬る

長山蝶女　霄子　水府の士師岡與右衛門女長山七平妻となる正德二年辰七月廿四日歿す歳四十二駒込大乘寺に葬る

中山愛親卿　大納言文化十一年戊八月十八日薨ず年七十四洛盧山寺に葬る

中山忠能卿　權大納言忠賴公二男明治廿一年六月十二日薨去歳八十音羽護國寺に葬る

中山平四郎　信名　字文幹本姓坂本常州の人中山有村の養子と成り和學所の敎授と成る本所柳島に居るを以て柳州と號す天保七申年十一月十日歿す歳五十下谷常泰寺に葬る辭世「酒もものみ浮れ女もみつ文もみつ家も興しつ世に恨みなし」

中山玄亨　安永八亥年五月廿一日歿す歳六十山城內野福勝寺に葬る

中山鬼卵　栗枝亭　東海道日坂の人煙草商にて傍戲作を爲し別號日之中道人と云ふ文政六未年二月廿三日歿す歳八十三

那珂通高　梧樓　明治十二年五月一日歿す年五十二青山墓地に葬る

中江平八　眼山　一名眠江又一貫薙髮して快安と號す伊賀の人享保十一午年六月十二日歿す歳七十二大坂一心寺に葬る

中江與右衛門　藤樹　名原字惟命號默齋江州高島郡小川邑の人近江聖人と云ふ慶安元年子八月廿五日歿す歳四十一

長江士瑤　字大圭延享五辰年正月廿五日歿す歳五十二增上寺地中威德院に葬る

長澤芦洲　呑江　芦雪の義子弘化四未年十月廿四日歿す歳八十一

長澤芦雪　主計　名魚通稱主計城州淀藩士圓山應擧門人圓山門の巨擘といふ寛政十一未年六月八日歿す歳四十五

長澤東海　名己字元丁號不怨齋儒士延享二丑年十月十八日歿す深川法禪寺に葬る

中澤亨　崑岡　字良祐實曆二申年四月八日歿す歳五十一洛東慈芳院に葬る

長澤容　山本北山門人字幼公寛政四年正月廿四日歿す歳十九才同年六月廿四日北山この人の爲に同志五十人を不忍池酒樓に會して遺稿を讀ひ觀蓮會と號す

中澤道二　名義道通稱龜屋久兵衛京師新町に住す織物職工にして心學者となれり享和三亥年六月十一日歿す歳七十九本所猿江妙壽寺に葬る

長坂平助　黑肱　號圓陸徂徠門人後熊耳の門に入る實曆十年辰七月廿七日歿す歳廿四牛込寺町法泉寺に葬る

仲　岐陽　明和二酉年六月廿五日歿す歳四十五愛宕下青松寺に葬る

中島東關　天保六未年九月廿一日歿す歳六十四

中島孤山　訥所　伊藤仁齋門人名義方字正休平安の人享保十二未年六月十日歿す歳七十文節先生と私謚す乙訓郡寺戸村後岡に葬る

中島敬藏　泰志　中嶋訥所の孫敎授を以て洛下に住す文化十三子年六月廿一日歿す歳七十

中島文吉　棕德　泰志男名規字景寛號隱軒洛東聖護院村に住す安政三年七月五日歿す歳七十七

中島文信　本性九鬼氏明和六丑年九月廿五日歿す歳七十二鳥部山に葬る

中島廣足　蛙磨　通稱太郎名春臣熊本藩の士後長崎に住し國學を以て鳴る又畫を善くす別號を黃口又檀園翁と云ふ元治元子年正月廿一日歿す行年七十三肥州万日山に葬る

中嶋隨流　松月菴　名勝直稱源左衛門平安の人俳諧を善す寶永五子年二月五日歿す歳八十一

夏目成美　不隨齋　通稱井筒屋八郎右衛門白雄門人又畫を善くす文化十三子年十一月十九日歿す歳六十四山崎町蓮光寺に葬る

奈良屋茂左衛門　我泰　姓神田氏幼名戊松五十七才の時剃髮して安休と云ふ享保十巳年九月三日歿す歳六十三深川靈岸寺塔中雄松院に葬る

南　嶺子　桂秋齋を見よ（かの部）

南光坊天海　謚慈眼大師本姓三浦氏寛永二十年未十月二日寂す歳百二十五日光山に葬る

南部景衡　南山　本姓小野氏字思聽長崎の人安藤省菴門後松永昌三門人正德二辰年三月七日歿す歳五十五

南仙笑楚滿人　通稱楠彦太郎始手跡師後宇田川町に住し書肆と成る文化四卯年三月九日歿す歳五十九西久保心光院に葬る

名倉彌次兵衛　忍齋　名千金字龍溪號拙城堂書和歌を能くす嘉永三戌年十二月八日歿す歳五十三千住安養院よ葬る法號淨心院義岳忍齋居士

名越與左衛門　宗閑　名時敏字子孫享和元酉年八月十九日歿す歳五十五本郷六丁目喜福寺に葬る

名越十藏　南溪　名克敏字子聽水戸の人安永六酉年五月十六日歿す歳七十九寺同上

名古屋玄醫　神聖軒　字閲甫號春菴丹水子元祿九子年四月十八日歿す歳六十九

行田雲濤　安政元年十一月六日歿す年五十七

並河織部　富士谷成章門號樟屋天保十二丑年十一月二日歿す歳五十二洛東定信院に葬る

並河五市郎　永崇　號五一居士天民の兄山城の人誠所とも號す元文三年三月十日歿す歳六十九（武家嚴刑錄に享保七寅年九月十二日今度江戸より京へ被仰遣候並河五市郎幾内相廻り候御下知左之通浪人並河五市郎と申者五畿内志編集に付五畿内相廻り於所々舊記等可申聞候神社佛閣等にて書物等一覽致度旨申候は丶無滯爲致披見可申候五市郎旅宿之儀寺方共に是又無滯可致相對之旨寺社奉行御勘定方町奉行印形之證文右五市郎持廻り候間爲心得申越候右之趣伏見奉行奈良奉行とも可被相達候且又五市郎え相渡候證文寫取越候間可被得其意候以上寅九月水野和泉守殿右之趣大坂町奉行堺奉行へも多筑前守長田越中守達候以上泰平年表に享保廿年五月並河五一郎編集奉行へも志版行に依て御名字御舊蹟のと書物に記し或い旅行之制令を出さる云々）

並河永亮　天民　字簡亮丹州の人仁齋に學ふ誠所弟享保三戌年四月八日歿す歳四十洛東清閑寺に葬る（天民漢學國學ともに善くすかたそぎの記にても知られたり蝦夷の地を本邦に屬せしめんと官に上書し老中も評議中の所病發して歿せり惜むべし）

並木宗輔　市中庵　通稱松屋宗助後號を舍柳と改む寛延三年巳九月七日歿す歳五十七（始田中千柳と云元祖一鳳門人竹本座の作者と成り並木と改む）

並木五瓶　並木舍　並木正三門人初五兵衛又五平と改ひ文化五年辰二月二日歿す歳六十二深川靈岸寺地中正覺院に葬る法號彩嶽院英藻辭世「梅はさく我はちり行くさらぎや」（大坂道修町の產辰岡万作の門人なりしか又並木正三に隨從し始吾八と云ひ追々立身して一家をなせり寛政六年十月江戸都座に下り五大力の狂言に大當せり並木と云名より思ひよせ淺草堂とも云へり横店に風藥の振出しの賣藥店を出せり門人の雷次風次といへるものに預けれのれは高砂町に住せり委しきことは略す）

並木五瓶二世　葛葉山人　初代五瓶門人初め篠田金次文政二卯年七月七日歿す歳五十二寺同上法號善岳淨功（二代目五瓶は元祖の門弟にして初名い篠山正三郎と云ふ是は實家本所割下水に住する御旗本野々山大膳殿二男なれば本姓野々山の一字に師の本姓をとりて斯く名付しなり師五瓶は篠田藤次郎といへり後二代目相續し又傍ら戲作を兼たり歿後菩提所幷梅若地内二ヶ所の碑は狂歌堂京山國芳の三大人世話人となられ勸化帳に各狂文を筆して配られたり）

並木五瓶三世　並木舍　二代目門人始篠田總六後文政七年金次と改む天保十四年十一月河原崎座にて三代目相續安政二卯年七月十四日歿す歳六七十寺同上法號得法直譽

並木正三　平陰　俗稱高砂屋平左衛門元菓子商並木宗輔門人安永二年巳二月十七日歿す歳五十二大坂法善寺に葬る法號常譽達雪

梨本祐之　加茂神主正三位に任せらる神道を山崎垂加に學へり國史に精通して日本逸史四十卷の編あり享保八卯年正月二十九日身まかられぬ洛の西遠寺に葬る（又かの部にも出づ）

奈須柳村　天保二丑年正月廿八日歿す歳六十八

* * * * *

らの部

雷電爲右衛門　信州山縣郡大石村の人本姓關氏牢兵衛の子十九歳の時江戸に出で浦風林右衛門の弟子となり雲州侯角力たり文政八酉年二月十一日歿す歳五十九法號雷聲院釋關高爲輪信士赤坂臺町報土寺に葬る（爲右衛門か手形を扇面に押たるに蜀山の讃あり、百里をも驚かすべき雷電が手形をもつて通る關とり）

賴　山陽　名襄字子成號山陽外史又三十六峯外史稱久太郎春水子天保三辰年九月廿三日歿す歳五十三京東山長樂寺に葬る

賴　杏坪　名惟柔字季立又千棋稱万太郎春水弟天保五午年五月朔日歿す歳七十九市谷本村照運寺に葬る

賴　三樹三郎　鴨屋　山陽三男又號古狂生後藤松陰門人安政六未年十月七日江戸にて刑死歳三十五

賴　支峰　山陽の男名復字士剛稱又二郎明治二十二年七月八日歿す歳六十七京東山長樂寺に葬る

賴　春水　名惟寛字千秋又伯栗稱彌太郎安藝の人文化十三子年二月十九日歿す歳七十一

來木默々齋　通稱次右衛門東來齋後二代目岡清兵衛と云ふ享保十九寅年四月廿二日歿す本所小梅常泉寺に葬る

老樗軒　岡田樗軒を見よ

老鶯巢宜麥　通稱川治彌三郎幕府御家人にて俳諧宗匠となる文政十一子年十二月二十二日歿す歳七十八下谷仲町福成寺に葬る

老西庵道喜　柳霞　通稱濱田五平文政元年寅五月廿七日歿す歳七十本所妙緣寺に葬る

樂亭西馬　通稱西宮新六號西窓菴安政五午年八月十四日歿す歳六十

* * * * *

むの部

室　直清　鳩巣　字師偪後師禮に改む又號滄浪駿臺稱新助始め加州侯に仕ふ正德元年西城に召さる享保十九寅年八月十二日歿す歳七十七護持院後御厩畠に葬る

室　勿軒　洪謨　字孔彰元文四未年十月廿三日歿す歳三十四御厩畠に葬る（御厩畠の地守を柴崎市郎右衛門と云近世の儒官葬地を賜りて寺院に葬せざる事は室氏より始りしなり）

無倫道人　雪堂　本姓志村氏號拾柴軒季吟門人越後の人享保二酉年二月廿九日歿す歳六十三愛宕下青松寺に葬る

無外坊燕説　通稱伊藤勘右衛門勢州の人延享二丑年四月廿二日歿す歳七十三

向井靈蘭　號蘭香又觀水子肥前神崎郡の人延享五巳年十一月朔日歿す歳六十九洛東眞如堂に葬る

向井三省　滄洲　字魯甫子細有て柳川に改め後本姓に復す享保十六亥年正月廿九日歿す歳六十六洛東慈芳院に葬る

向井去來　落柿舍　通稱平次郎又次郎太夫蘭亭實永元申年九月十日歿す歳六十二洛東眞如堂に葬る

向井誠安　懦洲　名信義字誠安寛延三午年十一月廿五日歿す歳六十四洛東慈芳院に葬る

村上玄武坊　朴齋門人俳天堂と號す寛政十午年正月十九日歿す歳六十牛込濟松寺に葬る

村上冬嶺　友佺　那波活所門人實永二酉年八月廿九日歿す歳八十二

村上英俊　松代藩士佛蘭西學を修め安政年中幕府の開成所教授方外國飜譯方に任す學藝を以て世を稗益す本邦佛蘭西學の始祖と云明治二十三年一月十三日歿す歳八十青山墓地に葬る

村上貞輔・弘化三午年五月廿五日歿す歳八十六

村上松堂　元篤　字士厚京の人峯駒の門天保十二丑年九月廿四日歿す歳六十六

村田春門　並樹　通稱次九兵衛號多豆能屋又都子園本居門人天保七申年十一月廿四日歿す

村田春郷　顯義堂　平姓春道長子字若觀明和五子年九月十八日歿す歳三十深川本誓寺に葬る

村田春海　錦織齋　平姓春道次男字士觀又號錦織叟琴後翁通稱平四郎文化八未年二月十三日歿す歳六十六深川本誓寺に葬る

村田春道　尚古堂　平姓通稱平四郎後宇兵衛明和六巳年七月廿一日歿す深川本誓寺に葬る

村田よし女　愛子（ヨシ）　伊右衛門妻貞享四卯年十二月十二日歿す歳四十七

村田多喜女　梅月　雲溪妻花鳥畫を能くす萬延元申年五月廿四日歿す歳四十二小日向本法寺に葬る

村田多勢子　春海の女なり後尼と成り芳樹と號す弘化四未年十二月十二日歿す深川本誓寺に葬る

村田了阿　春風　通稱小左衛門號春枝堂又一枝堂台麓清原雄風の門書は東江の門下谷金杉西藏院に葬る天保十四卯年十一月十四日歿す歳七十二

村田永年　雲溪　字伯慶號梅花都尉通稱正七萬延元申年閏三月四日歿す歳六十三小日向本法寺に葬る

村井佛山　號稗山稱彦左衛門豊前の人明治十二年九月廿七日歿す歳七十六豊前稗田村北香に葬る

村井古道　無名園　南都の人小西來山の門寛延二巳年十月四日歿す歳六十九

村松蘆溪　字子永稱與左衛門越後村松邑の人鵜士寧に學ふ後高田侯の儒官と成る天明七未年五月七日歿す歳五十七

村士淡齋　名宗殖稱彌左衛門江戸の人福山侯の儒官安永元辰年八月五日歿す歳七十三駒込大圓寺に葬る

村士玉水　淡齋義子名宗章號一齋稱行藏大和の人安永五申年正月四日歿す歳四十八駒込大圓寺に葬る

村瀨梼亭　名之淵字君績稱嘉右衛門秋田侯の儒臣文政元寅年二月廿三日歿す歳七十二

村瀨五猪　號心之又玉外樓稱勘作京烏丸に住す嘉永六丑年三月廿七日歿す歳六十六

C28.1-Se36-1-1
281.02-Se36-1-1

名人忌辰錄上卷終

關根正直校

大業 2.12.1 書籍